

隅田川流域河川整備計画（変更原案）

説明資料

令和 4 年 3 月 29 日

1 流域及び河川の概要

- ・ 隅田川流域の概要

2 河川整備の現状と課題

- ・ 過去の水害発生状況
- ・ 河川の整備状況

3 河川整備計画の目標及び実施に関する事項

- ・ 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

4 パブリックコメントの実施結果

1 流域及び河川の概要

- ・ 隅田川流域の概要

2 河川整備の現状と課題

- ・ 過去の水害発生状況
- ・ 河川の整備状況

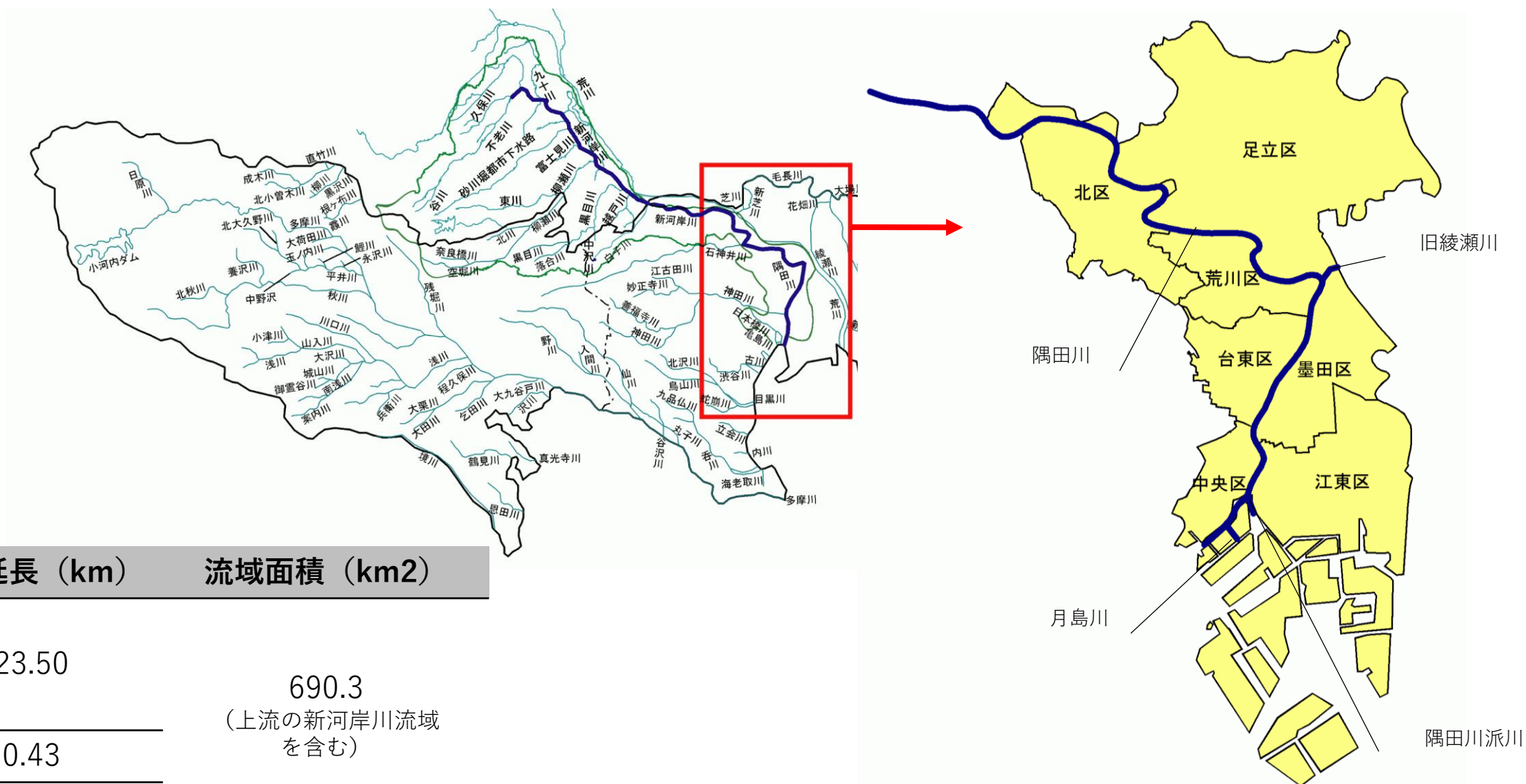
3 河川整備計画の目標及び実施に関する事項

- ・ 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

4 パブリックコメントの実施結果

流域及び河川の概要

- 北区にある岩淵水門で荒川から分派した後、新河岸川、石神井川、神田川等を合流させ、東京の東部低地帯を流下し、東京湾へ注ぐ荒川水系の一級河川である。
- 東京都の東部に広がる、東部低地帯と呼ばれる地域を流下している。
- 明治43年の水害を契機に荒川放水路が作られ、昭和39年の河川法改正により放水路の方を荒川、岩淵の水門から下流東京湾までの区間を正式に隅田川という名称とした。



法定延長 (km)

流域面積 (km²)

隅田川 23.50

690.3
(上流の新河岸川流域
を含む)

旧綾瀬川 0.43

隅田川派川 0.90

隅田川流域図 (東京都区域)

1 流域及び河川の概要

- ・ 隅田川流域の概要

2 河川整備の現状と課題

- ・ 過去の水害発生状況
- ・ 河川の整備状況

3 河川整備計画の目標及び実施に関する事項

- ・ 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

4 パブリックコメントの実施結果

河川整備の現状と課題

-過去の水害発生状況-

- 元来低地帯で地盤が軟弱であったことに加え、地盤沈下が進行した結果、高潮、洪水、大地震等の自然災害に対して極めて脆弱な地域となっている。
- 昭和24年8月に発生したキティ台風による高潮被害は、床上浸水73,751戸、床下浸水64,127戸、死傷者122人という被害を出し、昭和33年9月に発生した狩野川台風では床上浸水123,626戸、床下浸水340,404戸、死傷者200人を数える大災害となった。

主な水害記録

年別 区分	明43.8 (1910)	大6.9 10 (1917)	昭13.8 9 (1938)	22.9 (1947)	23.9 (1948)	24.8 9 (1949)	33.7 (1958)	33.9 (1958)	41.6 (1966)	54.10 (1979)	56.10 (1981)	57.9 (1982)	平成元.7 8 (1989)	3.9 (1991)	5.8 (1993)	平11.8 (1999)	平17.9 (2005)
災害種別	暴風雨 (洪水)	暴風雨 (高潮)	暴風雨 (高潮)	カスリーン台風 (洪水)	アイオン台風 (洪水)	キティ台風 (高潮)	第11号台風 (高潮)	第22号台風 狩野川 (洪水)	第4号台風 (洪水)	第20号台風 (洪水)	第24号台風 (洪水)	第18号台風 (洪水)	集中豪雨 (洪水)	第18号台風 (洪水)	第11号台風 (洪水)	集中豪雨 (洪水)	集中豪雨 (洪水)
気圧 (hpa)	995.2	952.7	978.6	992.3	971.9	985.9	986.1	970.7	981.9	976.1	968.6	965.0	—	989.1	979.1	—	—
時間最大雨量 (mm)	45.1	16.5	30.2	34.7	38.8	12.6	17.9	76.0	29.0	47.0	51.0	65.0	70.0	60.0	76.0	115.0	112.0
総雨量 (mm)	283.9 (7~11日)	161.6 (28~1日)	144.1 (31~1日)	166.8 (13~15日)	158.0 (15~16日)	66.0 (31~1日)	108.5 (22~23日)	444.1 (22~27日)	234.5 (27~28日)	251.0 (18~19日)	221.0 (22~23日)	313.0 (11~12日)	276.0 (31~1日)	376.0 (18~19日)	345.0 (26~28日)	128.0 (29日)	263.0 (4~5日)
風向・最大風速 (m/S)	NW9.9	SSE39.6	S31.0	N15.0	NNW18.7	ESE26.0	S22.8	WNW20.5	N15.5	S17.5	NNW14.4	S18.4	—	S19.6	NNW12.2	—	—
潮位 (A.P.m)	—	4.21	2.89	2.50	2.65	3.15	2.89	2.91	—	3.55	1.86	2.67	—	2.11	1.74	—	—
浸水面積 (km ²)	201.43	86.60	77.90	114.33	28.64	92.01	29.46	211.03	87.62	1.46	19.59	16.16	0.82	1.78	3.42	1.54	1.72
床上浸水家屋 (戸)	133,307	131,334	42,867	80,041	529	73,751	13,459	123,626	16,159	180	6,854	7,574	1,929	561	2,454	2,900	3,374
床下浸水家屋 (戸)	44,750	49,004	65,703	45,167	16,516	64,127	22,970	340,404	86,737	1,550	35,167	16,712	2,755	3,120	5,079	2,193	2,453
死傷者 (人)	169	1,524	38	11	24	122	133	203	9	99	4	0	0	1	0	0	—

明治43年8月災害………東京市史稿変災篇第3
 大正6年9、10月災害………東京市史稿港湾篇第1
 昭和13年8、9月災害………内務省東京土木出張所
 「昭和13年大洪水」による

昭和22年9月災害………東京都水災誌
 昭和23年以降水害………東京都建設局調べ
 昭和36年以降水害………水害統計調査（建設省）



キティ台風による被害（昭和24年8～9月）
 総武線平井駅付近



狩野川台風による被害（昭和33年9月）
 江東区大島付近

河川整備の現状と課題

-河川の整備状況-

- 隅田川流域における防潮堤や水門等の整備は概成している。
- 東日本大震災を契機として、将来にわたって考えられる最大級の強さを持つ地震に対応するため、耐震・耐水対策を実施している。
- 市街地との一体整備により、コンクリートによる直立の防潮堤を改築し、盛土による緩傾斜型堤防を整備するスーパー堤防整備事業を実施している。

防潮堤



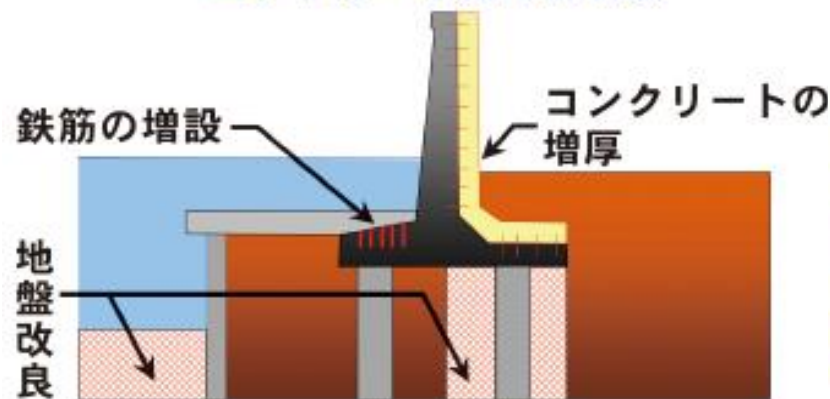
月島川水門



スーパー堤防整備前



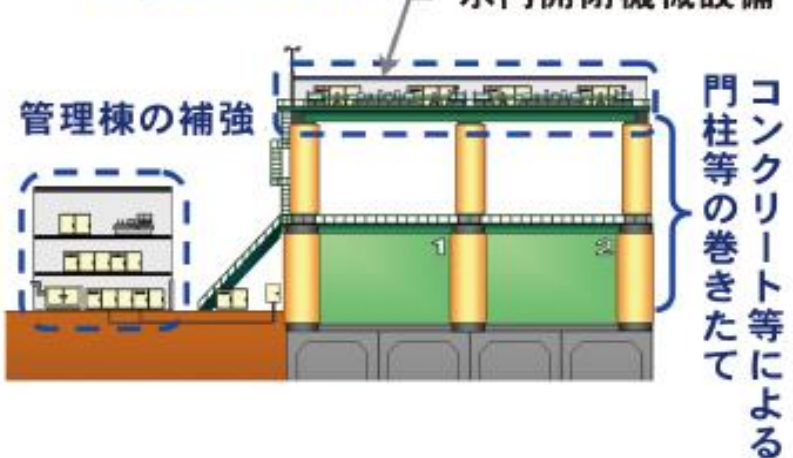
コンクリート護岸の補強



堤防の対策イメージ

設備固定の強化

水門開閉機械設備



水門の対策イメージ

スーパー堤防整備後



- 隅田川では、「隅田川等における新たな水辺整備のあり方」(平成26年)に基づき、人々が集い、にぎわいが生まれる水辺空間の創出に向けた取組みを実施している。
- 平成23年に改訂された河川占用許可準則を利用し、オープンカフェを設置している。
- テラスの連続化橋梁やスロープ、夜間照明を整備し、「水辺の動線」の強化を進めている。



河川区間を利用した飲食店の設置
(隅田公園付近)



テラスの連続化
(言問橋)



夜間照明の設置
(蔵前橋付近)

1 流域及び河川の概要

- ・ 隅田川流域の概要

2 河川整備の現状と課題

- ・ 過去の水害発生状況
- ・ 河川の整備状況

3 河川整備計画の目標及び実施に関する事項

- ・ 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

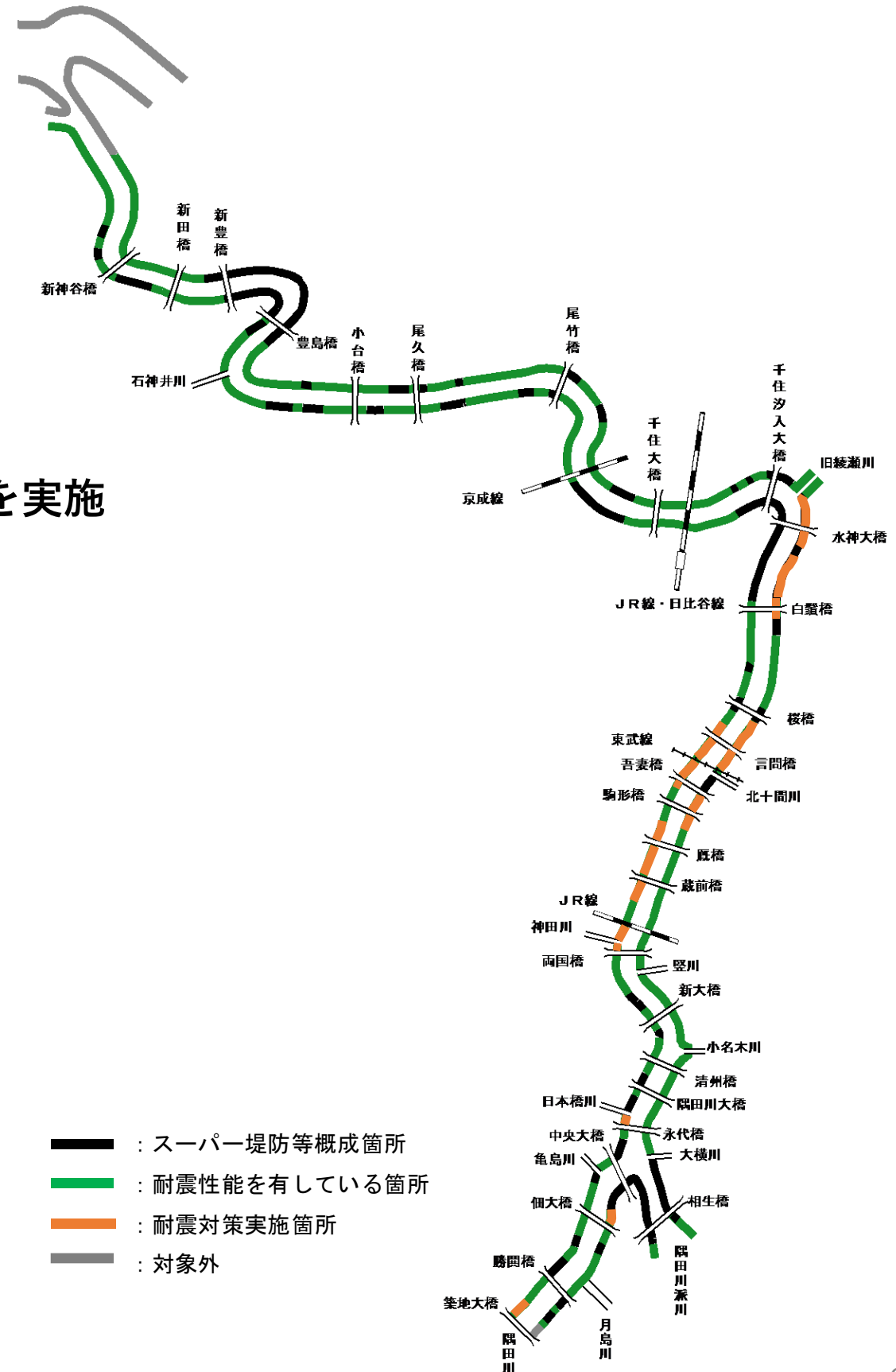
4 パブリックコメントの実施結果

地震水害対策（新たな計画策定に伴う変更）

令和3年12月に策定した

「**東部低地帯の河川施設整備計画（第二期）**」に基づき対策を実施

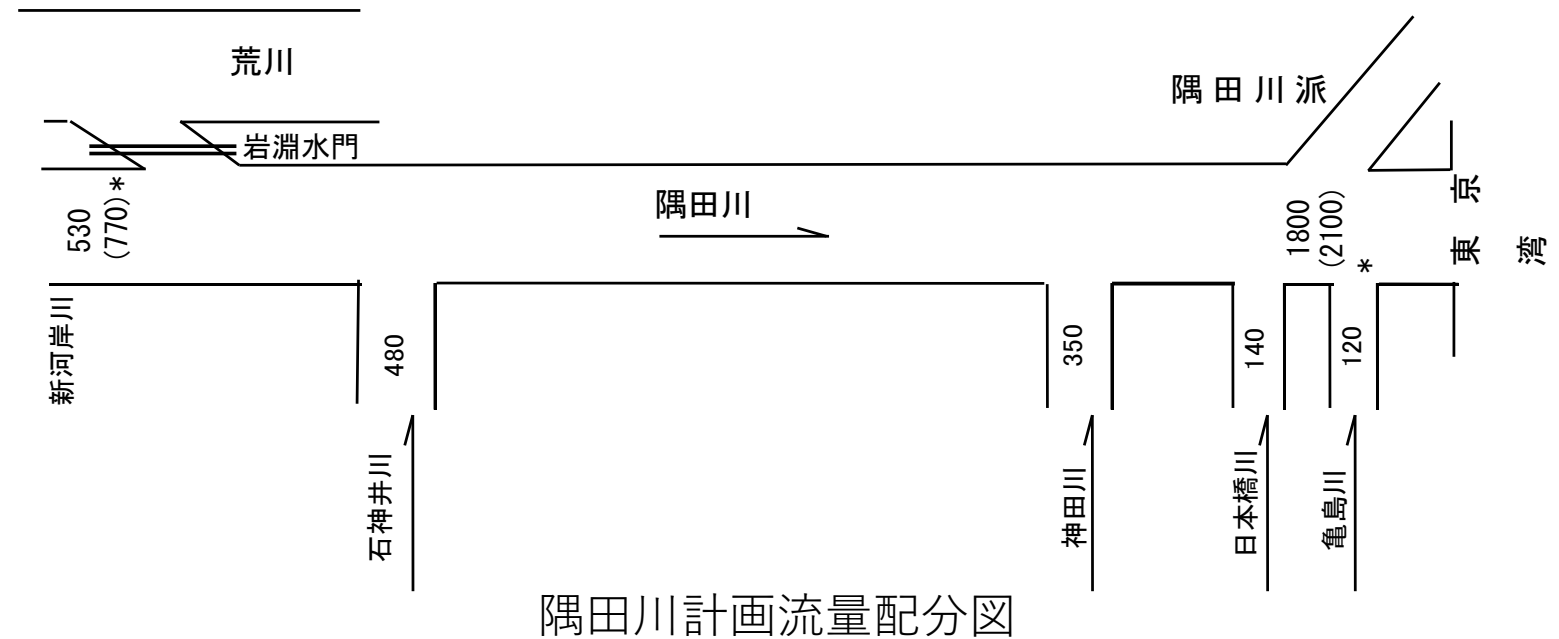
- ・ 将来にわたって考えられる最大級の強さをもつ地震に対応するため、防潮堤や水門等の耐震対策、スーパー堤防整備、緩傾斜型堤防整備及びテラス整備を実施する。
- ・ 水門等について、設備の高設置化や水密化を行うことによる耐水対策を実施し、また、設備の長寿命化を図る。



洪水対策（変更なし）

- 本川流域は1時間あたり50mm規模の降雨により生じる洪水、また、優先度の高い支川流域（石神井川及び神田川流域）は1時間あたり75mm規模の降雨により生じる洪水を安全に流下させるため、河床掘削等の河川改修を実施する。

単位：m³/s * () 内は荒川水系河川整備基本方針流量



高潮対策（変更なし）

- 昭和34年の伊勢湾台風と同規模の台風が、東京湾及び主要河川に対して最大の被害をもたらすコースを進んだ時に発生する高潮（A.P.+5.1m）に対して、安全であることとする。



隅田川防潮堤



月島川水門

1 流域及び河川の概要

- ・ 隅田川流域の概要

2 河川整備の現状と課題

- ・ 過去の水害発生状況
- ・ 河川の整備状況

3 河川整備計画の目標及び実施に関する事項

- ・ 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

4 **パブリックコメントの実施結果**

パブリックコメントの実施結果

< 意見聴取の実施概要 >

- 実施期間 : 令和4年2月1日～3月4日 (4週間)
- 実施方法 : 原案の公表、リーフレットの配布
- 実施場所 : 都庁河川部、都・建設事務所 (3箇所)、流域区 (6区)、都HP
※都・市町広報への掲載、HP・Twitter・Facebookでの情報提供により周知

< 提出意見 (総括) >

- 河川環境に関する事 4件
- 河川利用に関する事 4件
- 維持管理に関する事 1件

合計9件

パブリックコメントの実施結果

寄せられた主な意見と回答（抜粋）

主な意見	回答（案）
◆環境に関すること	
<p>「河畔樹木や植生を保全回復させる」</p> <p>河畔林は、魚類にとっての緑陰や落下昆虫の供給、あるいは鳥類の営巣、両生類や爬虫類の休息場所等を確保する役割を持つ。落ち葉が水中に入ることによってヨコエビ類などの餌となり、それらの水生昆虫等を捕食する生物の保全にもつながる。今回の当方で調査したところ、タイプ1の護岸に植生が見られなかった区間が多く、それらのエリアに対して、ヨシやガマといった抽水植物や湿生植物が定着できるような形にすることが望まれる。</p>	<p>隅田川は、かつて水質悪化が深刻な社会問題となっていましたが、近年では水質が改善され、生息生物や植生が確認されようになりました。引き続き、水質改善や動植物に配慮した河川環境の整備に努めてまいります。いただいたご意見につきましては、今後の河川整備の参考にさせていただきます。</p>

パブリックコメントの実施結果

寄せられた主な意見と回答（抜粋）

主な意見	回答（案）
◆維持管理に関すること	
<p>隅田川堤防概成が昭和50年、鉄筋コンクリート効用持続年数は120~150年とされています。現在は補強でよいとなっていますが、外見からもひび割れのひどいところは見受けられます。いまの堤防では実際の高潮の時にはそのようなところから崩壊するのではと心配します。また、コンクリート診断で大丈夫となっているのでしょうか?補修・補強では無理なのではと考えます。</p> <p>将来への負の遺産とならないよう抜本的に計画を見直してもらいたいです。</p>	<p>隅田川では、定期的に点検を行い、維持補修が必要な老朽化に対して補修を実施しています。</p> <p>引き続き、適切な維持管理を行い堤防の機能を保持してまいります。</p>